

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173600487		
法人名	TNふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里グループホーム日吉 A棟		
所在地	苫小牧市日吉町3丁目1番9号		
自己評価作成日	令和5年11月23日	評価結果市町村受理日	令和6年1月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&JigvsoyCd=0173600487-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年12月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方それぞれ得意な分野での役割を持てるよう工夫し、個々の習慣ややりたいことを継続できるように取り組みを行いながら毎日を活き活き暮らしていけるよう支援をしています。また、昔ながらの季節ごとの催し物や地域の方との交流、外出行事等を行い季節の移り変わりやホーム外の雰囲気感を五感で感じ取れるよう心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

苫小牧市郊外の、JR糸井駅から徒歩圏の住宅地にある平屋建て2ユニットのグループホームである。玄関前はバス通りで、近くには公共の運動場や体育館、公園、小学校、教会、コンビニエンスストアなどがあり、住環境に優れている。1階の玄関を挟んで9名のユニットが両側にあり、共用空間、居室、事務所、浴室などいずれも広く使いやすく作られている。また、中庭も広く、畑で野菜を育てたり外気浴を楽しむことができる。共用空間は絵画などを飾り、小上がりの和室コーナーもあって、利用者はゆったりと寛ぐことができる。地域交流に関して、感染症流行前は地域の様々な行事に参加し、小学生やボランティアとの交流もあったが途絶えていた。流行が落ち着いてきたこともあり、この夏の盆踊りに利用者が参加しており、今後も交流を増やしたい意向を持っている。運営推進会議は、関係メンバーが揃い、毎回テーマを設定して有意義な会議となっている。全体の運営面では、研修体制を整え、職員が様々な役割を分担し運営に参加している。ケアマネジメントの面では、介護計画に沿った日々の記録を作成して計画の見直しに活かしている。また、医療機関への受診体制も整っている。外出支援の面では、利用者が楽しめるよう、紅葉狩り等の外出行事を徐々に増やしている。快適な環境のもと、安心して過ごせるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所及び玄関に掲示しており常に確認できるようにしている。また、月ごとに理念を念頭に置いた目標を職員が立てている。	独自のケア理念の中に「地域の皆様と支え合い認め合える生活」という文言があり、地域密着型サービスの意義を踏まえている。理念を事務所や各ユニットの入口部分に掲げている。理念を念頭に利用者のケア目標を作成している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事や町内での活動にできる限り参加をし交流している。	感染症がやや落ち着いてきたので、今夏の町内盆踊りには利用者も参加した。散歩の際には住民と挨拶を交わしている。今後は以前のように小学生との交流や地域行事への参加を増やしたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会行事や避難訓練・運営推進会議等を活用し認知症に関する理解と協力を願っている。また、HPで日々の暮らしを伝える工夫をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議内で事業所の活動報告に加え事故報告等での意見をいただくこともある。入居者本人が会議に参加しホームでの暮らしや思いを話していただくことも行っている。	2か月ごとの開催で、市や地域包括支援センター、町内会役員、家族が参加し、各回、防災や技能実習生の受入、感染予防などのテーマを設定している。議事録を家族に送付しており、今後は不参加の家族の意見も得ていきたいと考えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での定期的な報告、必要時には連絡・相談を行う体制をとっている。	市や地域包括支援センター職員が運営推進会議に参加し、情報提供を受けている。感染症に関して市役所から多くの情報提供を受けた。また、市が主催する集団指導に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新入職者に対する虐待・身体拘束研修の実施をはじめ、定期的に不適切ケアを含めた研修を実施し職員全員に周知している。	身体拘束を行っておらず、年4回の委員会と、年2回の勉強会を行っている。勉強会では禁止の対象となる具体的な行為を確認している。玄関は日中施錠せず、ユニットの出入りに鈴やセンサーを付け、利用者の出入りが分かるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回の虐待研修の実施。月のカンファレンスや会議等で常にケアの質を検討している。		

ふれあいの里グループホーム日吉

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度においては現入居者の数名が活用しており身近にその必要性を感じる機会が持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	都度文書にて説明を行い同意を得ている。また、疑問点等あれば連絡先を明記し必要に応じて対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン説明時や面会時には都度要望等の意見を伺っており、各ユニットごとに意見ノートを設置し伝えやすい環境を作っている。	家族が利用者に面会する際や、家族にケアプランを説明する際に職員が意見を聞いている。得られた意見を申し送りノート等で共有している。毎月、写真とコメントを載せたお便りを作成し、計画作成担当者の手紙を添えて家族に送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスでの意見交換や定期面談で機会を設けている。	月1回のカンファレンスで活発に意見交換をしており、意見の少ない職員には発言を促すようにしている。職員は管理者と年1～2回の面談を行っている。職員は環境整備やお便り作成、行事などを分担し、運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の昇給や年休増加、資格支援制度の積極的な活用等で目標を設定し働ける環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々のケアの中で適切でわかりやすい指導を心がけている。また、eラーニングを活用し社内研修を行っている他社外の研修の情報提供や参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修やグループ会社との連携等で機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時に可能な限り困りごとややりたいこと等の聞き取りを行い、他事業者からの情報等活用しアセスメントを行いながら安心できる暮らしの継続に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の段階からご家族の思いを傾聴し数回に渡り確認を行い話し合う機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の要望等をふまえながら柔軟に対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることを継続できる環境を常に心がけており、心身共に活性できる支援を行っている。また、昔の遊びや習慣等職員が知らないことを教わったり一緒に何かを行うことで働く仲間になれるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	係りつけ医の受診等できる範囲でのご家族の協力をいただいている。また、ホーム側との連携がとれるよう情報交換を行えるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	美容室等行きつけの場所がある場合は入居後も継続できる支援を行っている。	以前は利用者の友人や知人が事業所を訪れていたが、感染症の流行により難しくなっている。家族と一緒に行きつけの美容院に通ったり、自宅を見に行く方がおり、近くのコンビニエンスストアに頻繁に買い物に行く利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共に暮らす仲間として互いに認め合い、助け合えるよう過剰な介入は避け職員が補助的な役割に徹するよう努め協力し合える場面づくりや談笑の場の提供を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時には気軽に来訪していただけるような声掛けを行い、立ち寄りやすい雰囲気づくりを心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族からの聞き取りやご本人の言動、フェイスシート等を活用しケアプランに反映させている。	2割ほどの利用者は言葉で思いや意向を表出でき、難しい場合も表情や仕草から把握している。趣味や嗜好を載せたセンター方式のB-3シートは片方のユニットのみ作成している。	センター方式のアセスメントシートを未作成のユニットでも利用者の趣味・嗜好をより詳しく把握するため「B-3」シートなどを作成し、情報の充実と共有を図ることを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートを参考にし、ご本人・ご家族からの聞き取り、生活する中での言動も含め把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状況に目を配り、アセスメントシート等で把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・御家族には都度要望等を聞き取りし、スタッフ個々の意見集約を毎月行いカンファレンス等で話し合いながら介護計画に反映させている。	6か月を基本に、変化があればより短い期間で介護計画を更新している。モニタリング結果と更新時の評価表をもとに意見交換し、計画を作成している。日々の記録を端末上の「ケアプラン」の項目に目標番号を記しながら作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録や個別の支援ノートを使用しながら情報共有に努め統一した実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の意向やご家族の要望・状況に合わせてできるだけ限り柔軟な対応を心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	成年後見人制度、訪問理美容、町内会活動等活用し支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を希望される場合には継続し通院できるよう情報提供や状況に応じて受診同行を行っている。	半分ほどの利用者が月1～2回協力医療機関の往診を受診し、他の利用者も家族または事業所の付き添いのもと、かかりつけ医に定期通院している。受診内容を端末に入力するほか「医療・受診経過表」にも記載し共有している。	

ふれあいの里グループホーム日吉

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携先の看護師が月2回の訪問看護を行っており情報提供と相談を都度行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時にはご家族と一緒にIC等を受けホームの上古湯をHPに伝えている。入院中にも経過の確認を行いながら円滑に早期退院に向け話し合いを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の指針を作成し相談時及び入居時に説明を行っている。また、協力医とも状況に応じ都度意見交換を行っている。	利用開始時に「ご利用様が重度化した場合の対応に係る指針」を説明し、署名捺印を得ている。重度化した場合はスムーズに医療機関等に移れるよう支援している。将来の看取りに備え、ターミナルケアの勉強会を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各ユニットの事務所に急変時の対応についての手順を張り出し確実な対応ができるよう努めている。更に起こりうる可能性のある事柄について指示灯行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各職員・入居者参加型の訓練を定期的に行っており、消防や地域と連携できる体制をとっている。	年2回の昼夜を想定した避難訓練を実施している。感染症が落ち着けば消防の直接指導や住民の参加を得る予定である。一方、最近では職員の救急救命訓練を行っていない。地震対応を含む防災マニュアルの整備を再確認する予定である。	各職員が3年に1回程度、救急救命訓練を受講できるよう取り組みを期待したい。防災マニュアルの再整備と、マニュアルや行政のハンドブックを参考に地震の初期対応やケア場面別の対応を職員間で定期的に確認するよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不適切ケアの重要性を理解し定期的な委員会の開催を行いながらカンファレンス時にも話し合う等職員全体に周知できるよう努めている。	利用者を「さん」付けで呼びかけている。接遇研修を実施し、不適切な対応があればその都度指導している。個人記録などは端末に入力している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側で一方的に決めつけることはせず、本人の生活スタイルや思いをくみ取りながら本人自身が決定できるように支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の今までの暮らしぶりや性格、環境等も考慮し各入居者のペースを保っていただける支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人のこだわりを重視した支援を行い、日常着の選択や理美容の際はご本人の希望を伺い伝える等の支援を行っている。		

ふれあいの里グループホーム日吉

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の能力や得意なことを活かせるよう食事作りや盛り付け、配膳、後片付けを入居者・職員一緒にやっている。	法人の献立を基本に、味付けや調理方法を変えることもある。年間行事に合わせて柏餅やぼた餅を利用者と一緒につけている。畑で収穫したトマトやサツマイモなどが食卓に上ることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に食べやすい硬さや形状に対応し無理なく一定の摂取ができるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。また、歯科往診や指導等活用できる環境を作っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各入居者個々の排泄パターンをアセスメントし、タイミングを見ながら声替えや誘導を行いトイレでの排泄につなげている。	全員の排泄状況を端末に入力している。ほとんどの利用者が、声かけや誘導で昼夜ともにトイレで排泄している。利用者に合わせて適切な排泄用品を使用し、状況に応じてベッド上で交換することもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操、腹部マッサージ、水分摂取、乳製品を取り入れる等行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間はある程度決めてはいるが、本人の状況や希望があれば柔軟に対応している。	利用者のタイミングに合わせて声かけし、午前中から午後の時間帯で一人週2回の入浴を支援している。二人介助での対応も行いながら、ほとんどの方が浴槽に入っている。入浴剤や職員との会話で入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は個々の生活パターンに合わせており、照明も希望に合わせて明るさを調整する等している。また日中も畳コーナーやソファ等ホールでもくつろげる場所を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表の作成や緊急時ファイルにて観覧しやすい工夫を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活を送る中でそれぞれが役割を持てるよう介護計画を作成している。また、季節行事を通して昔を懐かしんでもらったり四季を感じていただく工夫を行っている。		

ふれあいの里グループホーム日吉

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や屋外への外出希望がある場合は調整し実行している。入居者へアンケートをとり相談しながら遠近の外出を支援している。	普段は、車椅子利用の方も一緒に公園や事業所の周辺を散歩している。コンビニエンスストアに買い物に行くこともある。町内会の盆踊りに参加したり、紅葉見学に出かけている。家族との外食や通院など、年間を通して外気に触れる機会がある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人・ご家族の同意を得たうえで、おこずかい程度の現金は所持できるようになっており、希望があれば買い物の支援も行える体制をとっている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があればいつでもホームの電話を使用しかけられる状態となっており、相手からの電話をつなぐこともある。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に日当たりが良く光が差し込み温かみのある空間になっており、カーテン等で都度調整を行っている。居間には季節ごとに作成した壁飾りを配置する等工夫し季節をかんじとれるようにしている。	居間と食堂は、大きな窓に面した明るく開放感のある造りになっている。ゆったりしたソファもあり、利用者は好きな場所で寛ぐことができる。壁には利用者と一緒に制作した季節の装飾が施されている。トイレの前には、利用者が休めるようにベンチが設置されている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを向かい合わせに設置し互いが関わりあえるようにしている。更に少し離れた場所にもソファや椅子を置き、他者の気配は感じつつも静かに過ごせる場所の工夫に努めている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時の説明の際にご本人の使い慣れた物を持ち込めるようお願いしている。また趣味のものを飾る等自分らしさがみられる居室となっている。	各居室に洗面台が備え付けられ、使い慣れたタンスや椅子、仏壇などを持ち込んでいる。ジグソーパズルや手芸品など、趣味の作品を持参している利用者もいる。家族の写真などを飾り、それぞれの利用者が落ち着いて過ごせるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物干し等入居者が干しやすい高さに調節できるものを使用したり、台所には自由に出入りができ、冷蔵庫から氷をだし水を汲み飲まれる入居者もいる。			

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173600487		
法人名	TNふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里グループホーム日吉 B棟		
所在地	苫小牧市日吉町3丁目1番9号		
自己評価作成日	令和5年11月23日	評価結果市町村受理日	令和6年1月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方それぞれ得意な分野での役割を持てるよう工夫し、個々の習慣ややりたいことを継続できるように取り組みを行いながら毎日を活性させ暮らしていけるよう支援をしています。また、昔ながらの季節ごとの催し物や地域の方との交流、外出行事等を行い季節の移り変わりやホーム外の雰囲気感を五感で感じ取れるよう心掛けています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvsoyCd=0173600487-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年12月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所及び玄関に掲示しており常に確認できるようにしている。また、月ごとに理念を念頭に置いた目標を職員が立てている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事や町内での活動にできる限り参加をし交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会行事や避難訓練・運営推進会議等を活用し認知症に関する理解と協力をお願いしている。また、HPで日々の暮らしを伝える工夫をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議内で事業所の活動報告に加え事故報告等での意見をいただくこともある。入居者本人が会議に参加しホームでの暮らしや思いを話していただくことも行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での定期的な報告、必要時には連絡・相談を行う体制をとっている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新入職者に対する虐待・身体拘束研修の実施をはじめ、定期的に不適切ケアを含めた研修を実施し職員全員に周知している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回の虐待研修の実施。月のカンファレンスや会議等で常にケアの質を検討している。		

ふれあいの里グループホーム日吉

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度においては現入居者の数名が活用しており身近にその必要性を感じる機会が持っている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	都度文書にて説明を行い同意を得ている。また、疑問点等あれば連絡先を明記し必要に応じて対応している。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン説明時や面会時には都度要望等の意見を伺っており、各ユニットごとに意見ノートを設置し伝えやすい環境を作っている。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスでの意見交換や定期面談で機会を設けている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の昇給や年休増加、資格支援制度の積極的な活用等で目標を設定し働ける環境を作っている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々のケアの中で適切でわかりやすい指導を心がけている。また、eラーニングを活用し社内研修を行っている他社外の研修の情報提供や参加を促している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修やグループ会社との連携等で機会を作っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時に可能な限り困りごとややりたいこと等の聞き取りを行い、他事業者からの情報等活用しアセスメントを行いながら安心できる暮らしの継続に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の段階からご家族の思いを傾聴し数回に渡り確認を行い話し合う機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の要望等をふまえながら柔軟に対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることを継続できる環境を常に心がけており、心身共に活性できる支援を行っている。また、昔の遊びや習慣等職員が知らないことを教わったり一緒に何かを行うことで働く仲間になれるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	係りつけ医の受診等できる範囲でのご家族の協力をいただいている。また、ホーム側との連携がとれるよう情報交換を行えるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	美容室等行きつけの場所がある場合は入居後も継続できる支援を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共に暮らす仲間として互いに認め合い、助け合えるよう過剰な介入は避け職員が補助的な役割に徹するよう努め協力し合える場面づくりや談笑の場の提供を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時には気軽に来訪していただけるような声掛けを行い、立ち寄りやすい雰囲気づくりを心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族からの聞き取りやご本人の言動、フェースシート等を活用しケアプランに反映させている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェースシートを参考にし、ご本人・ご家族からの聞き取り、生活する中での言動も含め把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状況に目を配り、アセスメントシート等で把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・御家族には都度要望等を聞き取りし、スタッフ個々の意見集約を毎月行いカンファレンス等で話し合いながら介護計画に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録や個別の支援ノートを使用しながら情報共有に努め統一した実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の意向やご家族の要望・状況に合わせながらできる限り柔軟な対応を心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	成年後見人制度、訪問理美容、町内会活動等活用し支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を希望される場合には継続し通院できるよう情報提供や状況に応じて受診同行を行っている。		

ふれあいの里グループホーム日吉

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携先の看護師が月2回の訪問看護を行っており情報提供と相談を都度行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時にはご家族と一緒にIC等を受けホームの上古湯をHPに伝えている。入院中にも経過の確認を行いながら円滑に早期退院に向け話し合いを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の指針を作成し相談時及び入居時に説明を行っている。また、協力医とも状況に応じ都度意見交換を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各ユニットの事務所に急変時の対応についての手順を張り出し確実な対応ができるよう努めている。更に起こりうる可能性のある事柄について指示灯行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各職員・入居者参加型の訓練を定期的に行っており、消防や地域と連携できる体制をとっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不適切ケアの重要性を理解し定期的な委員会の開催を行いながらカンファレンス時にも話し合う等職員全体に周知できるよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側で一方的に決めつけることはせず、本人の生活スタイルや思いをくみ取りながら本人自身が決定できる支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の今までの暮らしぶりや性格、環境等も考慮し各入居者のペースを保っていただける支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人のこだわりを重視した支援を行い、日常着の選択や理美容の際はご本人の希望を伺い伝える等の支援を行っている。		

ふれあいの里グループホーム日吉

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の能力や得意なことを活かせるよう食事作りや盛り付け、配膳、後片付けを入居者・職員一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に食べやすい硬さや形状に対応し無理なく一定の摂取ができるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。また、歯科往診や指導等活用できる環境を作っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各入居者個々の排泄パターンをアセスメントし、タイミングを見ながら声替えや誘導を行いトイレでの排泄につなげている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操、腹部マッサージ、水分摂取、乳製品を取り入れる等行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間はある程度決めてはいるが、本人の状況や希望があれば柔軟に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は個々の生活パターンに合わせており、照明も希望に合わせて明るさを調整する等している。また日中も畳コーナーやソファ等ホールでもくつろげる場所を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表の作成や緊急時ファイルにて観覧しやすい工夫を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活を送る中でそれぞれが役割を持てるよう介護計画を作成している。また、季節行事を通して昔を懐かしんでもらったり四季を感じていただく工夫を行っている。		

ふれあいの里グループホーム日吉

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や屋外への外出希望がある場合は調整し実行している。入居者へアンケートをとり相談しながら遠近の外出を支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人・ご家族の同意を得たうえで、おこずかい程度の現金は所持できるようになっており、希望があれば買い物の支援も行える体制をとっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があればいつでもホームの電話を使用しかけられる状態となっており、相手からの電話をつなぐこともある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に日当たりが良く光が差し込み温かみのある空間になっており、カーテン等で都度調整を行っている。居間には季節ごとに作成した壁飾りを配置する等工夫し季節をかんじとれるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを向かい合わせに設置し互いが関わりあえるようにしている。更に少し離れた場所にもソファや椅子を置き、他者の気配は感じつつも静かに過ごせる場所の工夫に努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時の説明の際にご本人の使い慣れた物を持ち込めるようお願いしている。また趣味のものを飾る等自分らしさがみられる居室となっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物干し等入居者が干しやすい高さに調節できるものを使用したり、台所には自由に出入りができ、冷蔵庫から氷をだし水を汲み飲まれる入居者もいる。		

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里グループホーム日吉

作成日：令和 4年 12月 28日

市町村受理日：令和 5年 1月 4日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	アセスメントシートにおいて、基本情報の他の趣味・嗜好等の記録が不十分なものがある。	入居者すべてのアセスメントシートの内容をよりくわしく内容を充実させ共有を図る。	センター方式のB-3シート他書式の内容の見直しを図り、両ユニット統一したアセスメントシートを作成する。	3ヶ月
2	35	コロナ禍だったこともあるが、救急救命訓練の実施が数年みられない。防災マニュアルの整備が不十分。	定期的な救急救命訓練の受講を計画し、防災マニュアルの整理を行う。	対面での救急救命訓練の機会を検討しながら、動画視聴等も取り入れ、定期的に職員へ周知できるよう努める。	6ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。